

P 9973-1909-0104/6

⑤Int.Cl.
B 62 d
F 16 b

⑥日本分類
80 G 2
53 E 3

日本国特許庁

⑩実用新案出願公告

昭46-18569

⑩実用新案公報

④公告 昭和46年(1971)6月29日

(全4頁)

1

⑤リンク連結装置

- ①実 願 昭42-44735
②出 願 昭42(1967)5月29日
③考 案 者 油谷清
加賀市山代温泉17の28
⑦出 願 人 株式会社小松製作所
東京都港区赤坂2の3の6
代 理 人 弁理士 唐見敏則

図面の簡単な説明

図面は本考案に係るリンク連結装置の実施例を示したものであつて、第1図は履帯の側面図、第2図は第1図のA-A断面図、第3乃至8図は夫

考案の詳細な説明

本考案は、無限軌道帯連絡用の1組のリンク2'、2"との間に設けたブツシユ8と、該ブツシユ8の端面と他の組のリンク2、2"の内側凹部12との間の空間部にバツキング6を保持したカラー7と緩衝材5とを嵌装したシール部とに、軸心部に設けたグリース穴9と連絡した円周溝3を有しこの溝に、切目を有し直径が拡大縮小できるリング4を嵌着した親ピン1を挿入しこのリング4が前記シール部の緩衝材5の内面に嵌入して親ピン1とリンク2との境界面に介在するようにした無限軌道帯用リンク連結装置の構造に関する。

本考案は無限軌道帯の連結に使用される親ピンなどの一般に関節的に連結されている部材に使用する軸力固定装置に係るものであつて、一般に連結部片あるいは締結部片として使用されている軸あるいはピンの固定装置として使用できるものである。

本考案を説明の便宜上、無限軌道帯の連結に使用されている親ピンの固定について述べるが他の部分にも適用できるのはいうまでもない。

一般にトラクタなどの無限軌道帯は履板継手と履板継手に固く嵌めこまれたブツシユおよび軸ならびに履板継手にボルト締めされている履板から

成りたつている。

この無限軌道帯を車両から取外すためには履帯の一個所に親ピン(以下マスターピンという)が設けられていてこのマスターピンを取外すことに

8 より履帯を切り離している。

従来のマスターピンは軸端にテーバー部を作りピンを大きな力で打ち込みテーバー面の摩擦力でピンを固定していたため、固定が不確実で使用中心ピンが抜けたり、テーバーの段付部が圧入の影

10 響と段付による応力集中で折損することがあつたまた、別の構造としてピンの両端に割ピンやスナツプリングを使用したものがあるが、これらの固定部材は外部に露出しているため走行中、土砂にもまれて切損しピンが抜けだすことがあつた。

15 その他ピン抜きとりの分解時はピンに大きな力を与えてやる必要があるため危険をとまうという欠点があつた。

本考案は前記した欠点を改良するため組立分解が容易で、使用中に絶対抜けでないようマスター

20 ピンを機械的に固定し、分解時はピンの中心部よりグリースを圧入して機械的な固定を解放してからピンを抜きだす取外し自在な軸の固定装置を提供することを目的とする。

以下、実施例図面により本考案を説明する。

25 第2図において、マスターピン(以下ピンという)1はリンク2にたがいに回転しない程度の締付で圧入されていて、ピン1の溝3には円周に一個所切目13をもつたリング4が挿入されているリンク2の内面には緩衝材5を入れてありリング

30 4の拡張の程度をピン1を固定するに十分な単位を規定させるとともに密閉作用もするように構成してある。

バツキング6はカラー7に保持され、緩衝材5と同じように密閉作用をする。カラー7はリンク

35 2内にあり、リング4の端面をおさえ、他面はブツシユ8に接してピン1の軸方向の移動を制限している。ブツシユ8はリンク2'、2"間に固く嵌合固定され関係運動が起らないようになってい

るがピン1の外径とブツシユ8の内径にはわずか

Best Available Copy